

東区自治協議会(第5期)を振り返って

東区自治協議会会長 後藤 岩奈

1 はじめに

東区自治協議会第5期の2年間を振り返ってみることにします。

はじめに、全体会の会場レイアウトの工夫、報告時間の短縮、部会企画も全体の事業とする認識の共有などで、委員がお互いに顔を見合わせて、意見を出し易くすることを目指しました。また、提案事業検討部会を設け、事業に対する入念な準備を図りました。新潟県立大学との連携、「自治協議会だより」の発行にも力を入れました。

平成27年度提案事業「東区まちづくり実践塾」では、山中知彦前会長の基調講演から「まちづくり」、「協働」についての基礎や筋道を探り、東区内の地域活動の多くの具体例、実例に触れました。また、コーチングや新潟港についての勉強会、長岡市の先進地視察、「災害時ひなん誘導看板」の設置と検証、東区魅力探訪バスツアーを行ないました。

平成28年度提案事業「東区まちづくり実践塾(活動編)」では、前年に学んだ知識や理論を踏まえて、より実践的な活動として、防災リーダーの育成、災害時の被災情報伝達体制の整備、東区めぐりツアー、情報誌の検証と改善、世代を越えた交流活動、東区の公共交通実態調査などを行ないました。以下、その詳細、および成果と課題について見ていきます。

2 取組内容・成果

(1) 全体会について

ア 会議運営

今期最初の全体会を開催した際、行政からの報告が後ろから聞こえるのはおかしいという新任委員からの指摘があり、次の回から行政側も委員の議論の輪の中に入るような会場レイアウトに変更しました。これにより、委員と行政職員がお互いの顔を見ながら協議できるようになりました。

今期からは、部会が企画する事業も全ての事業が区自治協議会全体の事業だという共通認識を委員が持つようにしたため、全体会で事業の内容についての報告の仕方が変わり、意見交換がしやすくなりました。

また、これまで会議当日に配付していた各部会の会議概要録を事前(約1週間前)に配付することにしました。これにより、部会報告の時間を短縮し、内容の協議や質疑に充てることができるようになりました。

イ 新潟県立大学との連携

東区自治協議会前会長である山中知彦国際地域学部教授の「地域社会論」の授業において、「若者が考える東区のまちづくり」というテーマで県立大学2年生とワークショップを行いました。「防災」「福祉・教育・文化」「公共交通」「商店街」等のテーマ毎にグループに分かれて委員がファシリテーターと記録係を務め、学生の声に耳を傾けました。

普段接する機会が少ない学生の皆さんと直接顔を合わせて話したことは、とても新鮮でいい経験となったという声や、若者の意見をこれからのまちづくりに活かしていく必要性を感じたという声が聞かれました。

ウ 東区自治協議会だよりの発行

区自治協議会の活動を広く区民に周知し、認知度を上げる目的で、平成27年度に第4号～6号を、平成28年度に第7号～9号を発行しました。

編集部会で毎号アイデアを出し合い、区民に親しみを持ってもらえる紙面づくりを心がけました。区自治協議会の役割や活動情報を掲載したほか、地域コミュニティ協議会の活動について連載したり、東区の魅力や区内で活動する団体等を紹介するなど、区民に身近な情報を発信しました。

第5号及び第8号に掲載した「東区を知るクイズ」の回答には、「毎回楽しく読んでいます」などの感想が寄せられ、目的の達成に繋がっていると感じました。

(2) 部会について

ア 会議運営

各部会が企画担当する事業であっても、自治協議会全体の事業であるという認識を持って会議に臨むことで、他部会の委員の協力や参加について考慮しながら事業の内容を協議するようになりました。

イ 提案事業検討部会の設置

前期までは「提案事業検討会議」として開催していたものを、今期では「提案事業に関する事項について、連絡調整、検討を行う特別部会」と位置づけ、次年度の提案事業について協議する時だけでなく、提案事業を実施する際の各部会間の連絡調整や検討事項を協議する時などにも開催しました。

その結果、委員全員が一体となって提案事業を実施することができるようになりました。

(3) 提案事業について

ア 実施方法

前期までは部会毎に事業を企画・実施し、内容は部会報告でしか知ることが

できませんでしたが、今期から委員全員が、すべての事業が区自治協議会全体の事業であるという共通認識を持つことで、他の部会が企画した事業にも積極的に協力したり、他の部会の活動内容をより理解できるようになりました。

また、委員だけでなく、区民、地域コミュニティ協議会関係者、県立大学などと協働で事業を行うように努めることで、区自治協議会の活動に対する理解を広めることができました。

イ 平成 27 年度提案事業「東区まちづくり実践塾」

【目的】

区の協働によるまちづくりを進めるため、講座や先進地視察を実施しました。また、学んだ知識を活かしながら東区の活性化(実践)に繋げるため、普及啓発事業も併せて実施しました。

【内容及び成果】

①講座

各部会の担当部門ごとに 3 つのテーマを設定し、以下のとおり講座を開催しました。

○「東区まちづくりフォーラム～みんなで考える東区の未来～」

「まちづくりの基礎」や「協働」について学ぶため、当自治協議会の山中前会長による基調講演と、区内において各分野で地域活動を実践している方や学生によるパネルディスカッションを実施しました。

区自治協議会全体事業として、委員全員で力を合わせて成し遂げることができたほか、地域コミュニティ協議会でもさまざまな事業を行っていますが、それぞれの立場で地域の協働について努力されている人がいることを改めて実感しました。

○「コーチングを学ぼう！心を動かすコミュニケーションセミナー」

それぞれの立場でさまざまな人との接し方・関わり方を考えるきっかけづくりとするため、相手のやる気と能力を引き出すコミュニケーション技術である「コーチング」について、講師を招きセミナーを開催しました。

20～30 代の方の参加もあり、さまざまな世代から関心を持ってもらうことができました。

○「新潟港将来構想についての勉強会」

区にある大規模な交通拠点であり、区のまちづくりを考え、実践していくうえで関連する「新潟港将来構想」について、県の担当者を招き勉強会を開催しました。

新潟港の拠点としての現況や将来構想計画の重要性について再認識することができました。

②先進地視察

区のまちづくりに活かすため、「協働」に関する取組を実施している長岡

市(アオーレ長岡、ながおか市民防災センター、長岡市民防災公園)を視察しました。

アオーレ長岡を中心としたまちづくりや防災の取組を先進的に実施している姿を見て非常に参考になりました。また、区役所南口エントランスホールや東区プラザの活用方法、災害時の対応策など、区のまちづくりにも活かせることが数多くあると感じました。

③提案事業に係るワークショップ

委員が5グループに分かれて、「東区まちづくりフォーラム」や長岡市への先進地視察における成果や区のまちづくりへの活用策について意見交換を行い、次年度提案事業案の作成に活かすために重要なポイントを整理しました。

グループに分かれて話し合ったことで、自由に意見を述べることができたほか、さまざまな意見を聞くことができて大変有意義でした。

④普及啓発事業

部会ごとに、昨年度提案事業からの継続性を持たせつつ、以下のとおり事業を実施しました。

○地域防災普及支援事業：第1部会(市民協働部門)担当

地域における防災意識の向上を図るため、近隣の避難所や避難所までの距離などを掲載した「災害時ひなん誘導看板」を区内に設置しました。また、誘導看板の検証作業を実施し、地域における避難誘導體制などを検討しました。

看板の枚数等に差異はあるものの、全地域コミュニティ協議会で実施したことは評価でき、看板を設置するのが適切と思われる場所に思うように設置できない難点もありましたが、地域住民にとっては、看板に避難所名が明記されているだけでも有効なものとなりました。

また、地域の防災力向上は、最も大きくかつ永遠の課題と言え、その中で誘導看板を切り口に、地域住民が地域外の人と共に検証作業をしたことは大変意義がありました。

○東区の魅力探訪事業：第2部会(福祉・教育・文化部門)担当

区民の区に対する理解・愛着を深め、さらなる区の魅力発見に繋げてもらうため、前期に制作した「東区を紹介するデジタル紙芝居」で取り上げた場所を訪れる日帰りのバスツアーを、コースを変えて2回実施しました。

アンケートの結果、2回とも約9割の参加者方が「満足・おおむね満足」と答え、好評でした。また、「東区に住んでいながら、見学先を知らなかった。」等の記述も多く、「東区に対する理解・愛着を深める」という事業目的に適っていたと思われます。また、オリエンテーションとして、出発前に「デジタル紙芝居」を鑑賞したことで、紙芝居の普及にも繋がりました。

○東区の地域産業紹介事業：第3部会(産業・環境部門)担当

前期に作成した冊子「東区内事業所の地域貢献活動情報集」の内容を広く紹介するため、ホームページに専用ページを開設して最新情報を掲載しました。

当該冊子は、区内の事業所が実施している地域貢献活動(見学会や職場体験の受け入れ状況等)の情報を掲載しているもので、内容に変更があった場合の更新方法が課題となっていました。

更新できるようになったことで、常に最新の情報を提供することが可能になりました。

⑤活動記録集の作成

1年間の活動内容をまとめることで、次年度事業に活かせる記録集を作成することができました。

ウ 平成28年度提案事業「東区まちづくり実践塾(活動編)」

【目的】

平成27年度提案事業「東区まちづくり実践塾」で学んだことを踏まえ、より良いまちづくりの実現に向けて、以下の4事業について、地域課題の解決や魅力の向上に向けた活動に取組みました。

【内容】

①地域防災推進事業：第1部会(市民協働部門)担当

- ・ 地域の中で活躍する防災リーダーの育成支援を目的として、自治協議会委員、東区防災士、地域関係者、県立大学生などが参加して、研修会を2回実施しました。
- ・ 地震などの災害時において、地域から区災害対策本部へ被災情報を伝達する体制を整備し、地域へのスムーズな支援や応援を行えるよう、モデルとなりうる地域コミュニティ協議会において、地域の被災状況等を地域コミュニティ協議会の災害対策本部が集約し、区災害対策本部へ情報を伝達するための体制作りを支援しました。

②東区まちの魅力発見事業：第2部会(福祉・教育・文化部門)担当

- ・ 夏休みに小学生向けのツアーを実施したり、東区歴史浪漫プロジェクトと協働するなどして、東区めぐりツアーを、コースを変えて年3回実施しました。
- ・ 既存の情報紙など(「東区を紹介するデジタル紙芝居」、「東区まちの宝箱」、「わいわい東区マップ」、「あるっく!!」)を検証し、情報紙のあり方について改善策を協議しました。
- ・ 世代間交流を目的として、子どもから高齢者まで幅広い世代が集い、楽しめるイベントを開催しました。

③東区の公共交通に関する実態調査：第3部会(産業・環境部門)担当

- 地域の公共交通について今後の検討を行うための基礎資料の作成を目的として、「東区の公共交通に関する実態調査」(区民から約 1、300 人を無作為抽出したアンケート調査など)を実施しました。
- 調査結果から導き出された課題を踏まえ、市内及び他都市で成功している路線バスや区バス以外の移動システム(デマンドシステム等)の事例研究を行いました。

④東区まちづくり研究会：提案事業検討部会担当

新・東区役所誕生 5 周年記念事業において、自治協議会の活動を紹介するパネル資料展を開催しました。

3 課題について

- 全体会での議論が活発になるように、会場のレイアウトを変更し、可能なものは事前に資料を送付するようにしましたが、まだまだ発言が少ないのが現状であり、さらに会議運営を工夫する必要があると感じました。
- 平成 29 年度から委員構成や任期など区自治協議会のあり方について検討するということですが、今の制度では委員の年齢層が高くなる傾向があり、もっと若い世代が活躍できるような制度や委員構成について検討する必要があるのではないのでしょうか。
- 未だに「区自治協議会という名前は聞いたことはあるが、何をしているのか分からない。」という声を聞きます。区自治協議会の活動を知ってもらうには、「自治協議会だより」などで広報するだけでなく、区自治協議会で報告された内容をきちんと地域に持ち帰り、実際に地域の人と接しながら、一つでも多くの地域課題を解決し、それを成果として地域住民に実感してもらうことが大切なのではないのでしょうか。
- 提案事業を企画し実施するうえで、区自治協議会全体として取り組む事業、部会として取り組む事業、そして行政がやるべき事業のすみわけをはっきりさせ、それぞれの役割を明確にする必要があるのではないかと感じました。